

澁澤栄一の起業家精神

2014.10.18(土)

於 工学院大学新宿校舎アーバンテックホール

公益財団法人澁澤栄一記念財団 理事長 澁澤雅英

(澁澤史料館 館長 井上 潤)

I. 澁澤栄一と工学院

- 1887(明治 20)年 10 月 31 日 帝国大学総長渡辺洪基等が工手学校設立趣意書を発表
栄一は賛助員となり、同校設立基金として 200 円を寄付
- 1888(明治 21)年 2 月 仮校舎において開校、その後、校舎購入並びに増築がされた
同年 9 月 8 日 新校舎に移転し、開校式挙行。来賓として栄一、祝辞を述べる
- 1896(明治 29)年 2 月 同校の火災に際し、栄一、個人として 100 円、石川島造船所取締役会
長として 300 円を寄付
- 1913(大正 2)年 1 月 23 日 芝公園にて創立 25 年記念祝典挙行。栄一、祝辞を述べる
- 1925(大正 14)年 5 月 12 日 関東大震災罹災に工手学校復興会が組織され、栄一は同会顧問就任
- 1928(昭和 3)年 6 月 新校舎が竣工
- 1928(昭和 3)年 8 月 1 日 組織が変更され、校名を工学院と改称
- 1929(昭和 4)年 7 月 14 日 第 80 回卒業式挙行。栄一、生徒に対し訓話
- 1930(昭和 5)年 7 月 栄一は改めて推薦を受け、顧問就任

◇澁澤栄一の教育事業への関わり、想い◇

* 国家の側から光を当てられなかった教育分野の実現・存続への民間からの貢献

- ・ 商業・実業教育 ⇒ 東京商法講習所から東京商科大学 等
- ・ 女子教育 ⇒ 東京女学館(女子教育奨励会)、日本女子大学校 等
- ・ 社会福祉教育 ⇒ 東京養育院 等
- ・ 国際平和教育 ⇒ 同志社大学 等

*教育への熱き思い

- ・ 立国の重要な要素としての認識 ⇒ 国づくりは、人づくり
- ・ 官尊民卑の打破、将来も視野に入れて社会の安定をめざす
- ・ 経済と道徳の統合、女性の役割の再評価 (男性と共に活動する環境づくり)、福祉を重視する社会の育成、国際平和の希求

II. 起業家精神とは

*単に自分の事業を起こすことではなく、社会において経済成長、雇用促進に必要な要素

◇起業家精神の基本的な要素◇

- ① 既存の枠組みにとらわれず考える創造力、イノベーション・改善を推進するもの
- ② 特に起業の際の献身的な姿勢
- ③ いかなる困難にも乗り越えることができる忍耐力・粘り強さ
- ④ 世の中の変化に迅速に対応する柔軟性
- ⑤ 掲げた目標達成にむけてリードしていく指導力。それに合わせて必要となる情熱、自信
⇒ これら要素が活かされるためには、一般・専門の知識・経験の蓄積が必要であり、その蓄積のためには、不断の努力がまた必要となる

III. 澁澤栄一 91年の生涯から読み取れるもの

1. 生まれ育った地域の特性、そして家 ⇒ 当時の環境と実践の中で取得した経済観
2. 独特の学問享受 ⇒ 幅広い情報収集から指針の決定
3. 不条理に対する反発 ⇒ 「官尊民卑の打破」の芽生え
4. 国政への批判 ⇒ 体制内での改革
5. 渡欧体験 ⇒ 思想の転換、「新社会」との出会い
6. 近代資本主義の基礎づくり ⇒ インフラ整備から「合本法」「道徳経済合一説」の実践、普及
7. 日本の国際化を促進 ⇒ 日本の位置づけを意識
8. 社会福祉の整備 ⇒ 偶然から必然の事業へ
9. 教育・文化の整備 ⇒ 国づくりのための人づくり、伝統の維持、そして模倣から創造へ

◇注目される澁澤栄一◇

1. 企業倫理の実践者⇒ 道徳的な観念を伴う正当な生産殖利によって産業活動を活発化させる必要性
 2. 儒教精神(東洋文化)を貫いた人物
⇒ 今後の世界を考える上で儒教や東洋の伝統を新しい視点で見直す時
 3. 社会貢献事業の先駆者⇒ 社会貢献の本質を見極めた正当な活動の再認識
 4. リーダーシップを発揮した人物⇒ 確固たるビジョンを持ったリーダー創出への期待
 5. 高齢社会の模範生⇒ 最後まで自分で身のまわりのことが出来て、愉快地に生きる
- 単なる実業家・事業家でない「近代日本の創造者」「近代化のオーガナイザー」、「公益の追求者」

IV. 澁澤栄一の起業家精神を裏付ける要素

要因①：生まれ育った地域と家⇒ 先進性を帯びた地域、地域の中核・まとめ役をなす家の影響

要因②：合理主義(近代)的思考⇒ 不条理に対する反発、未来志向の醸成

要因③：旺盛な好奇心、鋭い洞察力、柔軟な思考、広い視野(総合的判断)

⇒ 幅広い情報収集から指針の決定、的確な情報発信

要因④：忍耐力、粘り強さ⇒ 厚い信用の獲得、幅広い人的ネットワークの構築

☆澁澤栄一の行動から見出せる信念

- ・道徳と経済の一致をみなければ持続的な成長はない
- ・未来像を思い描く⇒ その実現ために事業の持続・永続が必要
⇒ リーダーシップの要素・要因の連鎖
- ・事業・事業体の存続 ⇒ 労働意欲、地域貢献、社会のニーズへの対応につながる
- ・政治に対する経済の優位、「公益」の視点に基づく民間の活動が、政府「官」の活動を補完するだけでなく、むしろ先導すべきものである ⇒ 日本の発展、国際社会への貢献